

2009年10月16日

iPhone 活用し遠隔医療の画像コンサルタント、ソフトバンクと J-MAC が協業

ソフトバンクテレコムとジェイマックスシステム(J-MAC)は15日、iPhoneを活用した医療画像コンサルトのサポートサービスについて協業を開始したと発表した。

両社によると、医療現場では現在、医師不足などさまざまな要因から、救急医療現場における迅速な対応が困難な状況にある。救急処置は専門医の迅速な判断が欠かせないが、「専門医が常に医療施設内に待機することは現実的に不可能であり、何らかの解決策が必要とされている」(両社)。

今回、ソフトバンクテレコムとJ-MACは、iPhoneを活用した医療画像コンサルトのサポートサービスについて、協業を開始。さらに、医療機関の協力を得て、遠隔医療の分野における効果的な医療サポートサービスの開発に向け、共同研究も開始した。

共同研究では、モバイル端末を活用した遠隔からの医療サポートを実現することで、救急医療の効率化と質の向上を目指し、その有用性(救急医療の質の向上と医師の負担軽減)を検証する。

医療機関内で撮影した検査画像(CT、MRIなど)を、J-MAC社製DICOMビューア「VOX-BASE II」を使ってPDF化し、メール添付機能を用いて、各専門医が持つiPhoneに送信する。これにより、「現場の担当医と院外の専門医が検査画像を共有しながら、迅速に救急処置の相談ができるようになる」(同)。

iPhoneでは、画面に直接触れて受信した検査画像を拡大して患部を確認したり、送受信された動画データでの閲覧も可能。iPhoneのグループ通話サービス機能を活用すれば、医療画像を見ながら、院内・院外の複数の担当医師が、最適な治療方法を検討するといった使い方も期待できる。両社では、「これらのiPhoneを活用した画像参照により、遠隔地での救急医療へのサポート体制の構築が可能となる」としている。

共同研究には、鹿児島県霧島市の霧島市立医師会医療センターが参加。同センターでは、ITを取り入れた地域医療に取り組んでおり、現在は専門医がiPhoneを院外で利用している。同センター放射線部部長の田中大三氏は、「共同研究を通じて、画像コンサルトが十分に可能であるという印象を持った。私のように、院外では常にノートパソコンを持ち歩き、病院からの緊急コンサルトに対応している者にとっては、かなりの負担の軽減につながる」と話している。 以上